

酒々井町 郷土研究会々報

第38号

昭和60年10月1日
発行
酒々井町郷土研究会
編集部

年中行事 (三)

お盆の供えもの

お盆の仏壇の供えものは、珍しい果物、西瓜、南瓜、茄子やきゅうりで作った馬なのであります。この外に仏様のお盆三日間の食膳があります。

このことについての問い合わせをうけましたのを機会に、役員の協力を得て、現在どのように実施されているかを調査してみました。

調査は上本佐倉、酒々井、中川、上岩橋の街道沿いの二十軒を対象としてまとめてみました。調査結果は予想以上に昔からの伝統が守られているのに驚きました。そして宗派には関係がなく行われていることも判りました。調査結果は

▼十三日
夜 二十戸中、餅とだんご17。

おはぎ3。で餅とだんごが最も多かった。

▼十四日

朝 二十戸全部が御飯であり、家によって味噌汁、煮物、漬物をつけています。

昼 全部の家が、冷麦、うどん、そうめんの麺類で、これに茄子のしぎやき、天ぷら、煮物などをつける家が六戸でした。

夜 施餓鬼の弁当と書いておにぎり15、御飯2、弁当3、となっており、南瓜の煮付、茄子のしぎやき、ねぎのもの味噌汁などをつけて、からむしの葉で包むところもあります。

▼十五日
朝 何も供えない4、お茶だけ5。御飯、平常通りが11でした。供えても簡単なものが多いうようです。

夜 送りだんご19と茶飯ノで、ほとんどがだんごとなつています。そのだんごも塩味のだんごをからむしの葉につつむことになっています。以上が調査表に表れた数字であります。



昼 菜飯、味めし、ませ御飯が11と多く、そうめん2、その他2となつており、菜飯やませ御飯には副食として茄子のしぎやき、南瓜の煮付、豆腐の田楽、漬物などその家によって異なるものを供えています。

からの伝承であつて、それを大體うけついでいるようです。その伝承を少し整理してみると次のような興味のあるものとなつてきます。

▼十三日夜は、仏の喜ぶ甘いあんこ餅かだんごとして仏を迎えます。

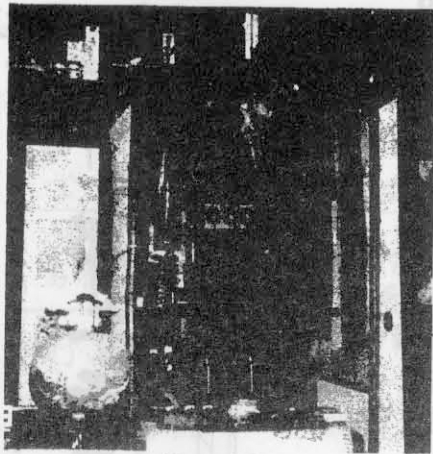
▼十四日朝に御飯と味噌汁の多いのは普通の朝食としたものでしょう。

▼同日 昼の冷麦、そうめん、うどんと麺類の多いのは、同じものをあげないための工夫で、それに茄子のしぎ焼、南瓜の煮付、天ぷらなどをつけています。

▼同日 夜の握り飯は仏が唐、天竺の施餓鬼に旅立つので、からむしの葉に包み副食を割っています。

▼十五日朝は旅に出て留守なので供えない、又はお茶だけでよいといわれているが、実際には簡単なものを供えています。

▼同日 昼の菜飯、ませ御飯は仏が馳走ばかり食べるので胸やけがするので菜飯にする



金 棚

という説と、同じ献立にしないため品変りにするという説があります。

▼同 夜はどの家でも送りだんごである。迎え盆には甘いだんごであったが、塩味のあるだんごにして、からむしの葉に包む。仏が遠い途を帰るので腐らないためだといわれています。

お盆の供えものの伝承は土地により、家により多少の違いはありますが、大体このように伝えられております。

要するにお盆中は仏を丁寧に接待する心が根底にあつて工夫された献立のようです。

(相京記)



白石 正雄

ナンバンギセル



ナンバンギセルはマキヤミヨウガの根に寄生する植物で、特に日当りのよいスマキに寄生します。昨年までは上本は念の防衛庁団地の空地に大群生しておりましたが、今はほとんどありません。

秋になるとススキの根元にセシキ前後の花柄をのびし紅紫色の美しい花を咲かせます。その姿がいかにマドロスパイプに似ているところからこの名が付けられました。

万葉のころからある古い花でそのころは「思ひ草」と呼ばれていたそうです。頭を少し下げた風情はいかにも物思いをしてる姿にも見えます。

ムラサキツメクサ

アカツメクサともいいます。野や路傍などに紫紅色のマリのように丸い美しい花をつけております。

この花は明治初期に牧草として日本に入つて来て、それが野性化して広く分布するようになりました。



クロイバの仲間でシロツメクサよりも大形で美しいのが特徴といえます。

酒々井町では京成駅下の路傍や、その他の地でよく見かけることができます。



よろしくお願ひ致します

れんげの播種について

ふるさとづくりの一環として

酒々井町の野に、れんげの花を咲かせようと前号に発表しましたが、準備も進み、今年は試験的に、①中平橋付近農道、②新堀下揚水機場付近、③東酒々井四丁目付近休耕田の三ヶ所を主として、その他適当と思われる場所がありましたら随所に播種することに決定いたしました。

人の眼につき易い場所で適当な場所がありましたらお知らせ下さいませようお願いします。

また個人で自宅付近に適当なところがありましたら、お申込み下さいは種は提供いたします。

要は、酒々井町の野に、れんげを咲かせることであり、今年には試験的ですが御遠慮なくお申しいで下さい。

(町史編さん室まで)

播種の実施は行事案内を参照して御協力をお願いいたします。



聖徳太子信仰について

加川 治良



柏木、新光寺と言つても、建物がある訳ではありません。その堂塔は、近くの大仏頂寺が火災で焼失した時、大仏頂寺再建のため解体され、その用材の一部になつたと聞いています。雑草におおわれている寺内にお堂が残され、聖徳太子像が置かれています。

聖徳太子を主体とした、信仰形態は太子講と呼ばれる講組織が中世から組織されて、全国に物資を運ぶ運輸業者が主体でした。永祿年中に書かれた、「色部年中行事」に退士と記録されています。色部と言うのは各職集団名称で、「渡」の部は水路業者のようで、「渡辺」と言う名称が全国に分布しているのも、運輸業者が全国に分布し活躍していたのです。聖徳太子伝説でも太子を「うまや戸の皇子」と呼ばれ、うま屋で出生したと言われています。

柏木新光寺に聖徳太子信仰があるのは、印旛沼を航行していた物資の運輸業者の信仰の中心として、聖徳太子像を新光寺に置いたと考えられます。明治初期の盛時には、聖徳太子像を木版にして信仰対象としていました。しかし交通手段の発達で印旛沼水路から運輸業者が撤退し、新光寺の聖徳太子像は忘れられたように取り残されたようです。



新光寺の聖徳太子像

聖徳太子像は、昔から乾漆造仏と伝えられてきましたが、最近の調査で、木彫寄木造りで、造像も新しいものと分かりました。像を入れる厨子も、細かい技巧を有していますし、見事なものです。やや技法に走りすぎているようです。堂内にある供養板、絵像も明治初期のもので

あり、寺歴を示す古いものはありませんでしたが、往古を示す正徳年代の庚申塔(町指定文化財)や寺内の墓碑を見ても、格調の高い盛時を推察できます。印旛沼を中心とした水路を利用した運輸業者の興亡を語る貴重な文化財として注目されますが、秘仏として三十三年毎にしか公開されないのが残念です。尚聖徳太子は職人の間に講中がつくられて信仰されてきた例も多くあったようです。

釣

宮本博司

むかし、アソビ あそび、遊び (丸)



川、沼などの鮒釣りである。篠の先にタコ糸を結びつけ、針ウキ、ナマリをつけ、餌はドブ際のミミズ、堆肥の中のミミズが主だった。又、春先は「柳むしがよい」と言われ、川の淵にある柳の枝につく堅い殻をつぶして中にいるさなぎのような虫

を餌にした。釣場は「あまり水のきれいに澄んでいるところ、流れの速いところはよくない」と教えられた。

東京から来た釣師は、つなぎ竿を使い、ビクを水の中に浮かばせ、格好の上では私たちに差をつけていた。

薬草

わらびとり、山うどとり、そして山三つ葉とりと



家庭料理の材料になり、つまり家の足しになる遊びが多い。土用の季節に入ると、家の者に言われて山にとうやく(せんぶり)、げんのしようこを採りに行った。又、地獄そば(どくだみ)は日陰の場所に群生していた。採って来たものは陰干ししておき、病気のとき煎じて飲まれた。とうやくは胃の痛むとき、げんのしようこは下痢をしたとき、地獄そばは毒消し、胃腸病のときなどに効くという。いずれにしても良薬は、口にかし。

歴代町長墓参

青木 喜作

三回目は八月十日であった。まず三代と十二代岡田さんの墓参。三代就任前は二代勸町長の助役で、就任後初代の宗島さんを助役に起用し、八月で宗島さんにバトンタッチして退任され、十二年後十二代で再任された。その年は旱害、水害、霜害と三重災害の年であつたが、よく乗りこえて、小学校を統合し、現在の酒々井小学校の基を造られた。

次は二十二・二十三代の松本さんの墓参。在任中に大東亜戦争が起きている。

次に十四代の木村さんの墓参。木村さんは町長在任中、町会議員、収入役、郡会議員の四役を兼任した珍しい人である。

次は九代吉岡さんの墓参。在任中の明治三十六年に水害があり前年に続いたの災害で、ご苦労も大変であつたと思ふ。又退任二ヶ月前には日露戦争

が起きている。最後は十一代相宗さんの墓参。就任は日露戦争終結の次の月である。在任中高等小学校を開設された。



以上で八代井和さん(墓地不祥)と二十六代加瀬さん(墓地横渡)を除く歴代故元町長二十一人の中、十九人の墓参を終つた。因に歴代町長は現町長を除けば二十二人、その中現在お元氣なのは二十八代桜井さんだけである。一層のご健康とご長寿を祈念して筆をよく。



「見聞記」

山内 辰生



九月十九日郷土研究会の「見聞記」が催された。相宗会長以下参加総数 百五名、三台のバスに分乗して、公民館前を予定より遅れて午前八時ジャスト出発、以下「見聞記」と題して、紙数の許す範囲内で紹介します。

高麗の里——飯能の北方、日高町に点在して、約千二百年前奈良時代に駿河・相模・上総・下総・常陸・下野の七ヶ国に高麗人千七百九十九人が集団移住したが、此処はその代表的遺跡で、「聖天院」は高麗王若光の墓所、「高麗神社」は高麗王をお祀りしている。

蔵造りの町並——川越城は室町時代に太田道真、道灌親子が築いたもので、小田原城と共に北城氏の居城として栄えたが、その後は徳川譜代大名の領有となり、川越は「江戸」に対して「小江戸」と呼ばれ、商業都市としても発展した。その名残りの蔵造りの町並が未だ繁盛している。そ

の代表的なものは、「大沢家住宅」だが、「時の鐘」付近の金物店「町勘」「蔵造り資料館」も有名である。イモ菓子の「亀屋」で買った駄菓子に童心に還る懐かしがあった。

川越大師喜多院——勅願による慈覚大師の創建したもので、慶長四年天海僧正が来住して隆盛を極めた。徳川三代將軍家光の「誕生の間」や、乳母の春日局の「化粧の間」などを参観した。「五百羅漢」も有名である。境内の茶店で、名物の「厄除けダンゴ」を食べたが美味かつた。

平林寺——時間の都合で見学中止となる。

昼食は川越市内の「時の鐘」のすぐ側の老舗割烹「初音屋」で蒸籠御飯を御馳走になった。

時の鐘——寛永年間、川越城主酒井忠勝が建立したものが、現在は電動式に六時、十二時、十五時、十八時と日に四回鐘の音を響かせている。

見学会全行程の内、七時間近くバスの中、いさか車酔いの見聞記となりました。私の即吟三句

まほろしの蝶と覚えし 高麗の里
秋蟬や 五百羅漢に 千の耳
蔵多き 小江戸と言われし 町も秋



楽しい
上野の旅
西沢 俊子

七月二十一日、名勝探訪の会に参加するため、急ぎ駅にきました。駅は野球の試合に行く生徒でいっぱい。上野までの小銭を左手に握り、ハラハラ落ち着かない私。「回数券を買いますよう」と頭脳明晰な奥様、すばやく鉄のはいつた切符を渡して下さいました。ありがたかったです。足どり軽く車中の人とりました。

終点上野駅について、まず不忍池に到着、大きな樹の下で、相京会長の説明を聞きました。上野公園は初めての私は、とても興味がありました。

東照宮に参拝。日光の東照宮を小型にしたのをここに造り、度々参拝された徳川将軍家、すかたなあと感じました。「人の一生は重荷を背負って」には、まる東照公御遺訓を改めて思い出しました。
東照宮は深い森に囲まれており、拝観料を払い団体として拝

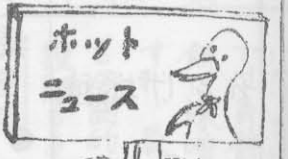


観することになりました。鹿島に從って内陣に進むと、テロップの説明が流れてきました。世が世であれば大名でなければ入ることのできない内陣とのこと。薄暗い感じではありましたが、すべてが豪華なものばかり。將軍の権力の大きかったことが偲ばれました。



東照宮は唐門、拜殿、本殿、壁画などいすれも国宝と重要文化財ばかりであることを改めて知り感慨を深くしました。寛永寺の五重の塔を横にみて公園にでる。

清水観音堂で一休みしていたとき、会田先生が「西郷さんはどっちを向いてますか」と言われ一瞬しんとなくなりました。西、東、鹿島島という声がありました。会田先生のお答えはいかがでしたか聞きおろしました。残念。暑い日ではありましたが、楽しい見学会の一日でした。



いろいろの話題を提供した科学万博が九月十六日に終りました。この科学博を訪れる外国の方々には、平和の花運動として、花ダイコンの種子を配りました。この趣旨に賛同したわが郷土研からも、金杉さんを中心とした有志の方々に計一、七七の種子を集めていただき、賛助金一万円をそえて送ったことは、先にお知らせした通りです。

全国からなんとドラム缶二本半分の種子が集まり、各国語で趣旨と詩き方の説明をうけた小袋百袋ができて、先にお知らせした通りです。

郷土研日誌

7月3日	会報37号発行	
7月5日	古文書学習会	参加者 10名
7月13日	運営委員会、秋の種について	18名
7月21日	名勝探訪 上野方面	26名
7月28日	石仏調査	13名
8月10日	歴代町長参事、中川上郷橋伊藤橋	13名
8月17日	史談会、酒々井の民俗	5名
8月24日	郷土史講座、考古学の見えに古代の伊藤地方	60名
8月28日	会報編集委員会	8名
9月6日	古文書学習会	8名
9月12日	運営委員会、4・4半期事業計画	21名
9月14日	史談会、酒々井の民俗	10名
9月15日	石仏めぐり	8名
9月19日	県外見学会、川越方面バス3台	105名
9月22日	名勝探訪、浅草・隅田川方面	21名
9月24日	会報編集委員会	8名

会計報告

川越方面見学会 (9/19)	
収入	
会費 4500 × 105名	472,500
支出	
バス代 108 × 3台	300,000
中食代 1,500 × 105人	157,500
交通費 3台分	26,100
拝観料 105名	26,250
運轉手お礼心付け	15,000
支出合計	524,850
差引	不足 ¥ 52,350 郷土研補助

きて、終戦記念日の八月十五日にその配布が終了したそうです。
酒々井の地で花を咲かせ突いた種子も間もなく世界各国、暑い国でも寒い国でも、平和を祈って可憐な花を咲かせるのだと思おうとうれいすね。どなたか海外を訪ねられた時、もしそこに紫の花が咲いていて、それが花ダイコンだったら、ここにも酒々井郷土研の平和への願いが根付いたのだと思つて下さい。
追記 今年も種子が採れました。御希望の方には、お分けすることが出来ますので、編さん室までどうぞ。
今すぐからでも蒔いた方が、きれいな花が咲くそうです。

郷土研行事案内

60年10月~12月

	10 月	11 月	12 月
古文書 学習会	5日(土) 午後1時30分 中央公民館	9日(土) 午後1時30分 中央公民館	7日(土) 午後1時30分 中央公民館
石仏調査	6日(日) 午後1時30分 (雨天中止) 集合—中央公民館	休	休
野草観察 名所探訪	13日(日) 午前8時 京成酒々井駅集合 目黒・円融寺—目黒不動— 羅漢寺—大門寺、他 実費負担 (雨天中止)	23日(土) 午前8時 京成酒々井駅集合 船橋・東京駅乗換え 高尾山 実費負担 (雨天中止)	休
史談会	12日(土) 午後1時30分 酒々井の民俗 中央公民館	16日(土) 午後1時30分 酒々井の民俗 中央公民館	休
県内見学会	11日(火) A班 15日(金) B班 19日(火) C班 (会費 ¥1,500円)	◎出発—午前8時30分 中央公民館前 ◎コース 笠川諏訪神社—入正醤油—大吠崎(中食)— 銚子電鉄—外川港—飯岡—帰着 ☎ 申込受付→10月8日(火) 9時より	
一泊見学会	12月 5日(木)~6日(金) コース 光ドライブイン—7時30分 横須賀記念艦三笠→走水神社→観音崎→ 日栄クリーニング—7時35分 フェリー→汝金谷→小湊 万龍泊 中央公民館—7時40分 出発 安房神社→安房博物館→安房国分寺→帰着 (定員 60名) (会費 ¥14,000円) ☎ 申込受付→10月8日(火) 9時より		
れんげ播種	播種日 10月5日(土) 9時 集合場所 中央公民館 又は 現地 中平橋 5日雨のときは翌日6日実施 ◎なるべく長靴で鎌をご持参下さい。 多数のご参加をお願い致します。		

見学会案内

県内見学会

「零つくし」のモデルとなって一躍有名となった笠川の入正醤油と銚子の外川港を中心としての計画です。

一泊見学会

横須賀市の記念艦三笠と走水神社、観音崎灯台を経て、フェリーで浜金谷へ渡り小湊泊り。安房国分寺など三浦半島と房州の古跡を訪ねます。

名勝探訪

◎十月は、目黒付近の名所旧跡と名の知られた社寺を訪ねることにしました。
◎十一月は、高尾山の紅葉を観賞するとともに秋の自然に触れて見る計画をいたしました。

編集後記

この間まで暑い暑いとさぼっておりました。庭のかたづけなどしていますと、こぼれた「花だいのん」の種子がそちこちに芽を出して、既に大きい本葉が育つていて自然の営みには驚くばかりです。
春に綺麗な紫の花が咲く揃うのが楽しみです。
この季節、多量の行事や催しなどもお出し、事と思ますが、郷土研もいろいろ予定を組まれたので皆様奮って御参加下さい。

新入会員紹介



- 473 小坂 昭雄
- 474 秋本 大け子
- 475 仲田 澄子
- 476 古川 とし子
- 477 竹尾 と志子

